

情報かわらばん

田麦山に夢と誇りをつくる

500人プロジェクト通信

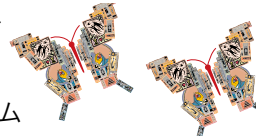


NO. 08

田麦山復興デザイン策定事業
2011.3.1-2012.2.28

2011年9月30日発行 通算8号

発行：田麦山地区連絡会 編集：田麦山に夢と誇りをつくる500人プロジェクト編集チーム



まずは地図を見てどこをまわるのか作戦会議をしました。地図を見つめる子どもたちの表情は真剣です。



暑い一日だったので、清水を飲んで生き返りました。おいしかったー！



「宝の地図」づくりに夢中の子どもたち。折り紙や写真を使って思い思いの宝ものを表現していました。



プロジェクトを見える化・現場の声が情報源・わかりやすく編集



五感を通して田麦山と出会う子どもたち

神社の木が

こんなに大きなものだったとは、

知らなかった



おばあちゃんたちがつくってくれたおいしいご飯。おばあちゃんたちもいっしょにみんないただきました。

2011年9月4日
子どもワークショップ

TAMUGIYAMA

未来創造大作戦



夢で羽ばたく田麦山。夢は、見るもの？ つくるもの？ 誇りは、あるもの？ 育てるもの？ それとも、思い出すもの？ わき出すもの？ 答えはあなたの中に。

9月3日(土) 田麦山公民館に子どもたち9名が集まってくれました。「田麦山に住む子どもたちの夢と誇りを育みたい」という目的で企画した「TAMUGIYAMA未来想像大作戦」。初回の今回は田麦山に隠された「指令」をもとに、宝ものを発掘するツアーです。

9月3日(土) 田麦山公民館に子どもたち9名が集まってくれました。「田麦山に住む子どもたちの夢と誇りを育みたい」という目的で企画した「TAMUGIYAMA未来想像大作戦」。初回の今回は田麦山に隠された「指令」をもとに、宝ものを発掘するツアーです。

「指令があつたー！」と子どもたちは大はしゃぎ。「清水の水をくんで飲め」「大人の夢を聞いてこい」などの指令にこたえていきます。とくに盛り上がったのが、熊野神社の神木の太さをはかる指令。神木は子ども5人、大人1人が両手

を上げてやっと届く太さで、子どもたちはその大きさを体感した様子。「こんなに大きくて太い木があるとは知らなかったー」と驚きの声をあげていました。最後は自分が見たこと、体験したことをもとに「宝の地図」をつくりました。「おいしい水」「みんなで田麦山を歩くこと」「神社の木」：ユニークで楽しい「宝の地図」が出来上がりました。

見る、聞く、触る、味わう、嗅ぐ全ての五感を使って田麦山を感じた一日。遊びを通じて田麦山の魅力や楽しさに気づいた子どもたちは、「今度は小学校くらいの大きなまくらをつくりたい」と張り切っていました。

震災の時は、ほんと田麦山がひとつになった。
今は……………?!

もう一度、みんなの視線の先にある
ピントを合わせるために、
拠点をつくりたい!

地域の助け合い、つながりを、
わずらわしいものから、ありがたきものへ

みんなの地域活動拠点をつくる計画づくりが始まりました。これは、田麦山に

夢と誇りをつくる500人プロジェクト（田麦山復興デザイン策定事業）の大きな柱の一つです。震災後に取り壊された田麦山会館はみんなの地域活動拠点でしたから、その復活というイメージがわかりやすいかもしれません。自分たちが使いやすいように自分たちで管理できる場所。それが、みんなの地域活動拠点のイメージです。

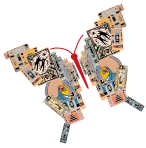
しかし田麦山会館を新たに前の形そのままに復元することは、みなさん御存知の通り、現状としては考えられないことです。お金がたくさん必要になりますし、田麦山小学校の校舎が、使い勝手の悪いところもありますが地域の公民館として動いています。ですから、みんなの地域活動拠点をつくるということは、田麦山小学校をいかにして使い勝手のいい



ものができるかということになるわけです。また、田麦山にある地域のお店を守っていくことも田麦山にとって大切なこと

でしょう。現にお年寄りの方にとっては、大切な買いもの先となっています。地域とお店が共同で地域ニーズに合った新しい形のお店を誕生させられる可能性もあり、この点についても連絡会では丁寧に検討していく予定です。

さて、そのために明らかにしておくなければならぬのが、『田麦山のまちづくりになぜ拠点づくりが必要なのか』という点です。「田麦山の皆さんは、なぜ拠点づくりに努力されたのですか？」と将来聞かれた時に胸を張って語れるものがなければ、誰も協力してくれるものにはならないでしょう。



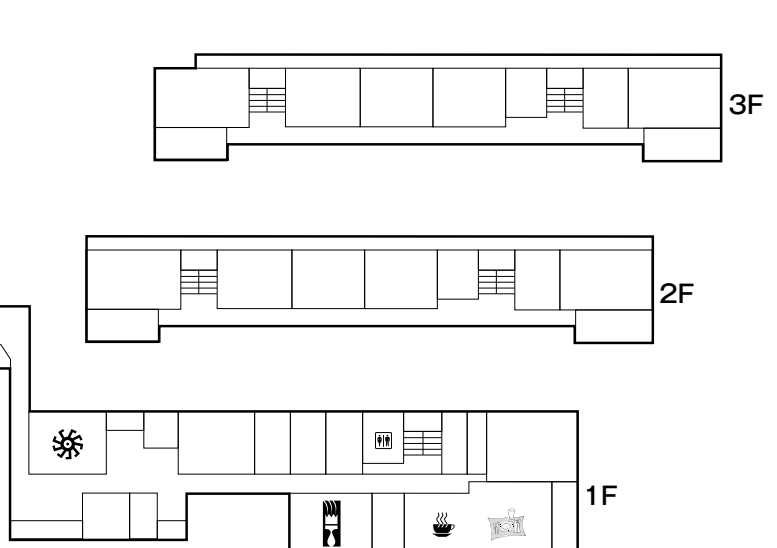
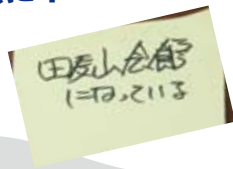
みんなの地域づくり拠点 ワークショップ

なぜ拠点づくりが必要なのか！
田麦山のまちづくり

2011年9月5日 田麦山公民館



公民館を
あらためて
みんなの拠点に！



●災害時の防災拠点にしたい

災害時の避難所の開設は、自治体職員よりも事実上は地域住民が担うことが多い。施設施設についての事前調整が必要。田麦山を「楽しく住める」ところにするためには、避難所を含めた防災拠点をつくるのが必須です。

●子どもたちが自由に遊べる場所にしたい

子どもたちが地域で自由に安心して遊べる場所を確保することは、まちを育てる心をつくっていくことにつながります。

●地域の情報が集まるセンターにしたい

地域の情報が集まるセンターのような機能を拠点があれば、誰もが地域の情報を得られる風通しの良いまちづくりが進められます。

●交流拠点にしたい

●外の人が訪れる

●ビクターセンターにしたい

●気軽に集まり

●お茶飲みできるサロンにしたい

●ギャラリーやイベント利用など

●多様な活用(貸し出し)を行いたい

地域内外の人が交流する場所としたい。交流のニーズを集約し、田麦山が人間交流の場として役立つのです。

●地域のお店を守りたい

●食べて飲める場所にしたい

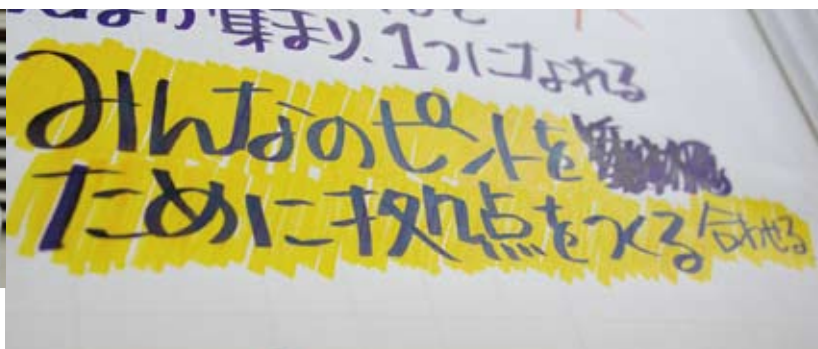
まちの中の便利な社交場を田麦山につくりたい。イギリスのパブは、公共の家という意味があり、お酒と軽食の提供とともに簡易宿泊所や雑貨屋、集会所の機能も備えています。お年寄りが近くで便利に買えるものができるだけではなく、みんなが便利に使える公共性の高いお店にしていけるかもしれません。地域全体であらためて里山流の社交場という観点で捉え直すことで、みんなが使える地域活動拠点になれるかもしれません。

●地域のみんなが視線を合わせ、ひとつになって、

●人間交流のありがたさを

●感じられるふるさとにしたい。

田麦山は、中越大震災から住民みんながひとつになって復興にあたってきました。住宅、農地などの生活環境の復興は目覚ましいものだったと思います。ここでさらに、ともするとわずらわしさを感じる地域コミュニティの人間交流についても、将来を見通した復興としてみんながひとつになって知恵を出していければ、真に「楽しく住める」田麦山をつくっていくことができるのではないのでしょうか。なぜ拠点づくりが必要なのかを話しあっていると、どうもこんなことに行き当たるようです。



地域のお店を守りたい！



地域のお店。今は、田麦山から車であちこちへ買いものに出かけることができるけれど、やはり近くに安心して買いものができる場所があるのは、とても心強いもの。

各地で、地域とお店が共同で経営を行なって、うまくいっているところがあるようです。

●黒板に書かれた学び舎への懐かしさ



旧田麦山小学校の黒板。「ひさしぶりに来ました！」とちよーくで書かれています。8月14日の日付。学び舎の思い出は、いつになっても忘れないもの。この記憶も大切にしたいですね。田麦山の宝の一つです。

今後の予定

10月2日(日):視察研修

みんなの活動拠点づくり事例視察

先進地を訪れ、運営の工夫やしくみを伺い、拠点づくりの参考にしていきたいと思います。アート作品を鑑賞したり、おいしいランチを食べるなど、お楽しみもあるので、お気軽にご参加ください。

視察先:「鉢カフェ」(十日町市)

「暖暖」(柏崎市)

10月5日(水):拠点づくりワークショップ

時間:19:30~21:00

場所:田麦山公民館

定例会が拠点づくりワークショップとして田麦山公民館を会場にして開かれます。ぜひ皆さまご参加下さい。どなたでもご参加が可能です。

10月23日(水):田麦山収穫祭

つきたてのお餅や炊き出しなど美味しいものを食べて集う収穫祭。避難訓練も開催されます。ここに新たに田麦山復活祭(仮)として第2回田麦山学習会、持ち寄りのたんぎゃまキッチンを開催します。学習会には、第1回で大好評だった結城登美雄さんをお招きして、地域の宝ものを活かす方法について学びます。

※田麦山に夢と誇りをつくる500人プロジェクトのブログもご覧ください。
<http://tamugiyama.exblog.jp/>

編集後記

その土地のものをその土地の人と一緒におしゃべりしながら食べる。これをこよなく愛している人がいました。越後佐渡・食の風土記というHPを開設し、越佐、信州、伊予、土佐、阿波、讃岐の郷土料理を紹介していた人です。地域のお茶の間が、土地のものを食べる最高の場所だと言っていました。「旅人は、その土地を最高に味わえ、土地の人は新しい情報を得ることができると。」ふと思いつきました。



田麦山は中越大地震以降、人口・世帯の減少、保育園・小学校の相次ぐ閉園・閉校、急速に進む耕作放棄地の増加など、田麦山の将来に向けて暗くなるような話題ばかりでした。

そんな中、昨年田麦山地区協議会で田麦山の将来ビジョンづくりの検討を始まりました。

これを受けて、協議会と地区内の各種団体とで田麦山地区連絡会を立ち上げました。集落を維持していくにはどうしたらよいか。田麦山の将来はどのようなればよ

いのか。目標を「楽しく住める田麦山」として真剣に話し合ってきました。

「楽しく住める田麦山」には地域に暮らす一人一人の思いを大切に、誰もが住みやすいと思う明るく楽しい田麦山にしたいという思いが込められています。

その時になってからでは遅いのです。今のうちに地区民みんなで田麦山の将来のことを考えてみようではありませんか。

活動を始めて9か月あまり、これまでアドバイザーの大滝さんの指導を受け、二つの取り組みをしています。

一つは500人の夢プロジェクトです。これは自分の夢・願いを書いて写真にとり、パネルにして公民館に常設展示することです。連絡会では田麦山に暮らす人たちがどんな夢や願いを抱いて暮らしているのかを知ることから始めたいと考えています。

二つ目は田麦山の資源調査です。田麦山を良くするには田麦山の良いところ(資源)を見つけることから始めようというので、田麦山の味を見つめる「食資源調査」、田麦山にある豊かな「自然

資源調査」、田麦山の先人が築いた「歴史文化調査」です。

田麦山を見る角度・視点を変え、また見つめ直すことによって田麦山の再発見がありました。

この取り組みも今年度いっぱい終わりになります。それまでに田麦山の進むべき方向を見いだせればと願っているところです。

その時になってからでは遅いのです。
今のうちに地区民みんなで田麦山の将来を
考えてみようではありませんか。
楽しく住める田麦山を実現するために。

連絡会メンバーコラム

田麦山連絡会

会長 内山敦夫

